

単語は、建築の素材のようなものです——文章という建物をつくるために、どんな素材を使うのか。素材としての単語の使い方は、語源、そしてそこから生まれる語感を身につけることによって磨かれていきます。

*

この章で、語源は単語に関する知識(うんちく)を増やすだけではないことがわかりになったと思います。

では、どのようにしているんな単語の語源を調べ、自分のものにしていけばよいのでしょうか。

実は、こういった情報は、難しい参考書を買ったり、大金を払って学校に通ったりしなくても、書店で手に入る辞書や、家電量販店で売っている電子辞書を使えば、簡単に調べることができるのです。

次のPart 2では、紙の辞書、電子辞書を使って、語源をたどり、語感を磨く、さらに語法を身につけていくやり方を、語源の話が続けながら説明していきたいと思います。

Part 2

「語源力」で ホンモノの単語力をつける! ——いつもポケットに語源

私たちは「英語」を深く理解できるような単語力をつけたい、と思って勉強しています。

しかし、私たちの受けてきた英語教育では、単語の1つ1つとていねいにつきあい、それを自分のものにしていく、ということほとんどありません。

言葉を本当に自分のものにしたいのであれば、**1つ1つの言葉を、実際に経験することが必要な**のです。

「小さい子どもは、母語を自然に覚えていく」と言われます。でも、小さい子どもが日常の中で言葉を覚えていくのを見てると驚きます。幼児はけっして「苦勞なしに」、「自然に」言葉を覚えていくのではないようです。

新しい言葉に出会ったとき、覚えてたの言葉は、何度も口の中で繰り返す、何度も使い、「経験しながら」身につけていきます。

人間にとっての言葉は、ちょうど、クモが巣をつくるのと同じような、「本能」なのだと、心理学者のスティーブン・ピンカー(Steven Pinker)は言っています。

なるほど、放っておいても、幼児は周囲の人たちの言葉を自分で